

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家 (ひまわり)		
所在地	小樽市桂岡11-13		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成	25年	1月 21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	<input type="radio"/> 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	<input type="radio"/> 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある		
		<input type="radio"/> 3. たまにある		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	<input type="radio"/> 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	<input type="radio"/> 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	<input type="radio"/> 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が		
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが		
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが		
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の合同申し送りで理念の唱和をしている。毎月、自己評価項目から項目を選び全職員が理念を元にレポートを提出し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の小学校との交流や、近隣から日本舞踊やハーモニカのボランティアが毎月来て下さり、町内の行事にも参加している。地域のチャリティーショーでは協賛金の拠出と見学も行っている。毎年夏に里の家祭りをを行い、地域との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実務者研修の実習を受け入れている。散歩や買い物を通して地域の方と入居者が会話される事もある。近隣の方との会話から、介護保険制度や認知症についての話題になり、質問を受ける事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様のご家族様も参加して頂き、二ヶ月に一度行っている。入居者様の日常や、行事の様子等を報告させて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所にも里の家だよりを配っている。運営推進会議に市役所からも参加して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について勉強しており、資料の配布もされている。玄関の施錠についてはやむを得ず施錠しているが、外出したい時には外出でき、施錠していると感じられないケアに努めている。職員全体が外出の際の危機感や安全確保の認識を更に深める事で施錠緩和に努めたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への全職員の参加と本部及びユニットの内部研修を通して理解を深めて頂いている。職員同士がお互いに注意し合える環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時やご家族様から問い合わせがあった場合や必要に応じて、管理者又は職員が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に施設長よりご家族様に重要事項説明を詳しく行い、同意を得ている。 解約や改定の際も同じく説明を行い、改定の際は本社より書面での説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様からの意見箱を設置し、意見や要望があった場合は速やかに対応し、全ホームで見直しを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は毎月輪番で各ユニットで昼食を取りながら各ユニット職員の話しを聞いている。 本社を交えてのユニット会議やユニット内のミーティングを行っており、毎月の本社会議でも意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自のレポートや評価に関する提出物より努力や実績を把握されている。 全職員に勤務日数に応じた有給が与えられており、毎年、花見や忘年会も実施している。 勤務日数は希望によって調整されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員の評価を行っている。外部の研修には全職員が順番で参加している。毎月、本社社員が来て勉強会が開催されており、順番に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホーム同士での交流会を行っており、市内のグループホーム同士での相互訪問にも順番で全職員が参加予定をしている。 地域の福祉事業者との会合・市内の介護支援専門員の勉強会・会合に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人様の希望や意向を聞き、ホームでの生活や様子を伝え、安心して頂けるよう努めている。入居後もご本人様の話しを聞き、人間関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望や意向をお聞きし、どんな対応をさせて頂いているか説明している。入居後も、ご家族様の意向を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と相談・協力しながら自立支援を行っている。リハビリ受診や機能訓練も希望によって対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種研修等を通してご本人様の喜怒哀楽に共感できる様にしている。ご本人様の立場に立ち、笑顔で待つ支援を心掛けている。手伝いにも参加して頂き、笑顔と感謝を忘れないよう対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の希望や様子をご家族様と話し合い、ご協力して頂きながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別又は行事で入居者様の行きたい所（家や馴染みの地域等）に行けるよう支援し、話を聞いて友人・知人等にも再会出来るように対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見守り、トラブルに発展しないよう事前対応できるよう心掛けている。良い状況の時は職員が割って入る事のないように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退居される方が多いが、近くの病院であれば他者受診時に面会するよう心掛けている。病院やご家族様からの問い合わせにも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からご本人様の希望や意向を聞き、支援できるよう努めている。 意思の疎通が困難な方は表情やご本人様の様子を見守りながら対応している。自分ならどうして欲しいかも職員一人一人が考え支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様からバックグラウンドをお聞きし、その後もご本人様からは日常生活の中で、関係者には面会時にバックグラウンドをお聞きし、追加が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや見守りの中でその時々々の状況を見極め、サインを見逃さないよう努めている。 職員間の連携や情報の共有も大切にしている。 着替え等、出来るだけ自分でして頂ける様、見守りながら、その時の状況に応じて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師の意見書とご家族様との話し合いをしている。 会話の中からご本人様の意向を聞いている。 ユニット会議やミーティングでアセスメントし、ケアについて話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に記入し、バイタルも個別に一目で分かるよう記録している。状況に応じて連絡ノートに記入し、チームケアが徹底されるよう努めている。 変化があればケアプランにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問による機能訓練を希望された方に利用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日本舞踊とハーモニカ演奏のボランティアが毎月訪問して下さっている。桂岡小学校との交流と地域行事にも参加している。 地域の消防署に来てもらい消防訓練等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望を大切に、地域のかかりつけ医への受診も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や受診時に変化があれば相談している。それ以外にも変化や疑問があれば電話で相談や問い合わせをしており、状態に応じて対応してくださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下やリロケーションダメージを防ぐため、ご家族様と話し合いながら医師やケアワーカーと相談し、なるべく早く退院できるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の意向を確認しながら状況の変化に応じて対応できるよう努めている。事業所で出来る支援をご家族様に説明し、医師からの状況説明もご家族様にして頂き、終末期が近づいた方には今後の治療・ケアについて同意書を頂き、ご家族様・医師と密に連携を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の訓練を受けている。 マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加して頂き、避難訓練を定期的に行っており、階段にスロープを設置している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳が保たれるよう、声掛けに配慮している。(声の大きさや態度・部屋での対応の際、ドアや窓・カーテン・バスタオルの使用等) 内部研修でのテーマにも挙げ、職員全員が入居者様一人一人に配慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の場所や外食で食べたい物・参加・不参加、日常の食べたい物・手伝い・入浴・着替え・服装等、日常生活で自己決定の場面を多く持つように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活ペースに合わせて支援している。遅く起きた入居者様にも配慮して食事の提供をし、希望に合わせて散歩やドライブ・買い物等の外出・屋内外での手伝い・趣味や楽しみ事の支援等、その方らしさに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品は基本的にご本人様でされているが、外出時に皆さんで口紅を塗って外出する事もある。 着替え等は支援が必要な部分だけ支援するように努めており、衣類の選択もして頂くようにしている。 寝癖や衣類の乱れにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、作り方を教えて頂いたり手伝って頂き、片付けや食器拭き等、入居者様と行っている。 好き嫌いは個別に対応している。外食や行事で食事に変化をつけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェック表に記入し、不足している方は好みの飲み物を飲んで頂くようにしている。野菜を多めにし、タンパク質・脂質・炭水化物の量に配慮している。食事量や血液の状態によって医師から栄養剤を処方されている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯やご自身の歯の方、一人一人の状態に応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中失敗のある入居者様の場合、表情やサインからトイレに誘ったり、ポータブルトイレを使って頂くようにしている。尿意・便意がある方には声を掛けて頂き、出来るだけトイレで排泄して頂ける様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時間にヨーグルトも食べて頂いている。食事の工夫（野菜や果物を多く）運動・水分摂取にも心がけている。 主治医と連携を取り薬の調整を対応頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いにしない様、入居者様の意向に配慮している。 上手くいった情報を共有して、入浴につなげている。 入浴日にとられない様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方・その時に応じて部屋で休んで頂くよう支援している。 夕方からは穏やかに過ごして頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。夜間にお腹が空いている様なら、ホットミルクや軽食を提供する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内部研修を行い、薬の内容を把握しており、変化があれば周知している。 薬のセットを間違わない様分かり易いよう工夫している。食べ合わせについても勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中、手伝いや料理を教えて頂いたり、歌やゲーム・風船バレー等の運動で活躍できる場面作りをしている。外出行事の先行の相談も行い、感謝するようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状況や希望に合わせて近所の散歩や買い物・裏で畑仕事を手伝って頂いている。外食や、喫茶店でお茶を飲んだり、天気の良い日はドライブに出掛けておやつを食べたり、近所の公園でお弁当を食べに行く事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望され、いつもお金を手元に持たれている入居者様もあり、希望に応じて買い物の支援もしている。支払いが困難な方は支援している。買い物されなくても、スーパーが好きな方もおられ、買い物の手伝いをして頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をして頂いている。かけて欲しいと言われる方には支援している。他者が気にならない様に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は日頃より清潔の保持に努め、装飾等は過度にならない様にしている。生活感・季節感を取り入れ、明るく、家庭的な雰囲気作りに努めている。照明の明るさ・温度・テレビや雑音の大きさにも配慮し、快適に過ごして頂ける様心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や席を工夫して不満が出ない様配慮している。食卓椅子以外にもソファやベンチを置いて居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明し、使い慣れた家具や持ち物を持ってきて頂ける様にお話ししている。入居後も入居者様の意向をご家族様に伝え、配置換えの希望があれば支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々で変化する入居者様の状況に応じて、出来る所・出来ない所を見極めて支援している。居室のドアに表札を付け、マスコットを下げたりトイレ等の表示をしている。手すりや履物にも配慮している。		